

道徳的不一致に対する生命倫理の現代的アプローチの検討

飯塚理恵（大阪大学）

道徳的不一致が残る価値多元的な社会の中で、わたしたちは個人レベルでも政策レベルでも意思決定を行っていかねばならない。道徳的不一致を正面から扱う近年の倫理的アプローチとして本発表では、実践における集合的反省的均衡（CREP）と敵対的協働（Adversarial Cooperation）を検討する。前者は、公衆の選好を倫理理論や原則と照合し、不一致を前提にしつつ正当化可能な政策形成を目指す。敵対的協働は、不一致の持つ生産的可能性を重視し、価値の相違を残したまま対立する当事者が協働的な探究を行う方法を提案する。両者はそれぞれ、道徳的不一致の存在を前提に、意思決定や協働を可能にする枠組みを提示している。しかし、こうした枠組みが現実の価値対立の場面でいかに機能しうるかは検討を要する。本発表では、日本の PGT-M（着床前遺伝学的検査）をめぐる価値対立を例に、両アプローチが前提とする理想化された対話や熟議の条件と現実の道徳的不一致の状況との隔たりに着目し、その適用上の課題を検討する。